

安心・安全 住みよいまち末恒

第8号

広報 神話の郷すえつね

まちづくりの基本は  
「安心・安全な  
まちづくり」から

令和6年度神話の郷末恒  
まちづくり協議会の活動報告



神話の郷末恒  
まちづくり協議会  
会長 山本 孝久

末恒地区の皆様、日頃より「神話の郷末恒まちづくり協議会」の活動にご理解ご協力をいただきありがとうございます。令和6年度は地域の未来づくり懇談会、地区文化祭、ふるさと探訪等、様々な行事を実施しました。コロナ感染症が令和5年5月から5類感染症として位置づけられて以降、コロナにより奪われた日常が戻りつつあることが実感できた年ではないでしょうか。

本年度の主だった活動を報告させていただきます。

8月23日に鳥取市の幹部職員を招いて地区公民館を会場に「令和6年度地域の未来づくり懇談会」を開催しました。「地域防災力の向上について」をテーマとし、災害時鳥取市が発令する自主避難及び高齢者避難（警戒レベル3）について意見を交わしました。末恒地区には鳥取市が指定する避難所が無く、最寄りの場所として湖山西・湖山公民館となっていることから、なぜ末恒地区に避難所が開設できないのかを確認しました。鳥取市の回答としては、地区内に河川災害及び土砂災害の発生リスクが少ないこと、市職員の関係などで、市としては新たに末恒地区内に避難所を開設する予定のないことが明らかになりました。

この回答を受け、会議終了後、翌日から台風の影響で災害の発生が想定されたことから、地区防災会連絡会を中心に、当地区に自主避難及び高齢者避難

（警戒レベル3）が発令された場合、地区公民館を避難所として開設することを決め、自治連合会の緊急連絡網を使用し、地区の皆様へ周知させていただいたところ。安全なまちづくりと考える、迅速な対応ができたと思います。

そして、令和7年度6月には地区の皆様への意識啓発を目的とした「防災フェスタ」を、末恒小学校にて開催する予定としています。地震災害を想定した「起震車体験」や段ボールベッドの組み立てなど、皆様に関心を持っていただけるプログラムを多数用意しています。10月26日、27日の両日には、末恒の将来を担う子どもたちを中心に据えた地区文化祭を実施しました。当日は、小雨混じりの天気でしたが、多くの参加者に恵まれ大変にぎやかな文化祭となりました。

6月1日には、ふるさと探訪「もう一つの白兔伝説&琴浦昇竜めぐり」を実施し、大山町にある中山神社他、所縁ある周辺神社、また今年の干支「龍」にちなんで寺社を巡り現地学習を行いました。最後に「まちづくりとは？」を最近話題のAIに尋ねますと、「地域住民の生活環境を改善し、地域の魅力や活力を高めるための活動。地域社会の資源を活用したハード面の整備だけでなく、空間や環境の整備、ルール作り、イベント、人と人とのコミュニケーションづくりなど、豊かな生活をするうえで必要な整備を網羅する言葉」と出てきます。当協議会においても、この言葉のとおり活動できているか、常に「P（計画）、D（実行）、C（評価）、A（改善）」を繰り返しながら活動していきたいと思えます。今後とも地区の皆様のご意見を伺いながらまちづくりを進めてまいりますので、ご協力並びにご支援をよろしくお願いいたします。



ミシンボランティア  
拡大学校運営協議会  
地域学習

●編集・発行  
神話の郷末恒  
まちづくり協議会  
事務局  
末恒地区公民館  
鳥取市伏野1986-32  
TEL:0857-59-1147  
FAX:0857-59-1150

※スマートフォンで読み取って下さい！

公民館HP

Instagram

第4回  
神話の郷すえつね文化祭



末恒地区公民館  
館長 山本 英世

山田クリスマスさんによる落語とEmuさんによるチェロとピアノの生演奏で始まった「第4回神話の郷すえつね文化祭」が10月26日（土）・27日（日）に開催されました。昨年度よりコロナ禍前の規模に戻し、今年度も2日間開催としました。

昨年度は、子ども向けイベントをメインとした拡大版の文化祭でしたが、今年度はコロナ禍により停滞・後退していた地域のにぎわいや活気を取り戻そうと「日常をとりもどし、より深くつながろう」をテーマに賑やかに開催されました。

初日は朝方雨がぱらつき心配しましたが、10時の開会前には回復しオープニングの芸能ステージも無事進行しました。模擬店、催事では年配の方には懐かしいポン菓子無料配布があり、ポン菓子機の蓋を開けるときの「ポン！」

末恒小学校では、「ふるさと末恒を愛し、自ら学ぶ意欲と優しさ、たくましさをもつ子ども」の育成もみんも笑顔の学校」を学校教育目標に掲げ、全教職員が一丸となって児童の育成に取り組んでいます。しかしながら、子どもたちが、より健やかに、日々笑顔で生活するためには、学校だけではなく、地域・家庭とのつながりが不可欠です。

本年度も地域学校協働活動の合言葉「笑顔でつながるふるさとすえつね」の実現のため、学校・地域・家庭が協力し、様々な取組を行いました。

まず、四月の始業式、入学式後に早速「学校カフェ」をオープンし、地域の方と学校職員が交流しました。互いに顔を合わせて話をし、「子どもたちの笑顔のために」という思いを共有することの大切さを感じることができました。その後「わくわく交流ひろば」や「すえつねひろば」を通して、子どもたちが地域や保護者の方々と触れ合いながら楽しい時間を共有

という大きな音に驚いた子どもたちが大勢集まっていた。また、数年ぶりに地区老人クラブがもちつきの実演と販売を行い、出来立てのお餅はあっという間に完売しました。体育会によるビンゴ大会は毎年大人気で多くの子どもたちや地域の方が豪華賞品をねらって参加しました。自治会による小学生以下対象のお菓子の袋詰めでは、指定された袋いっぱいにお菓子を詰めて嬉しそうに持ち帰る姿がありました。

2日目は、穏やかな秋空の下、会場の公民館駐車場や地区体育館、公民館は朝から多くの来場者で賑わいました。駐車場にはたくさんさんの模擬店が並び、野菜やもち米、おこわ、花苗など人気の品は開会と同時に売り切れていきました。民生児童委員協議会による大型ガチャコーナーでは、何が出てくるかドキドキしながら子どもたちがハンドルを回し、出てきた景品に歓声を上げていました。100個用意した景品はあっという間になくなりませんでした。

2日間で約1500人の来場があり、大変賑やかな文化祭となりました。芸能ステージや催事、模擬店、作品展示へ出演・出店・出品していただいたみなさま、地区自治会や各団体のスタッフの皆さまのおかげと感謝申し上げます。日常が戻り、子どもから大人まで地域の皆さんがより深くつながった文化祭となりました。来年度も多くの皆様の来場をお待ちしています。

することの大切さを感じることができました。また、夏季休業中に開催した拡大学校運営協議会研修会では、「子どもたちの学びに、地域のひと・もの・ことを」をテーマに意見を出し合いました。この研修会が、その後の地域人材を活用したキャリア教育や地域学習、伝統文化の理解教育、算数のかけ算九九や家庭科の調理、裁縫等の学習支援へとつながりました。

地域学校協働活動での様々な取組の中で、子どもたちと地域・家庭、教職員が「笑顔でつながること」ができたと感じました。

今後とも「笑顔でつながるふるさと末恒」の合言葉実現に向け、地域・家庭と教職員とが一体となり、サブテーマのように、「子どもたちのために汗をかき、ちえをしぼる」ことを惜しまず進んでいきたいと思えます。



3周年を迎えました！  
学校カフェ すえつねひろば



# 令和6年度事業実施報告

**柱1 自主防災啓発活動in 文化祭**



防災意識の向上のため、文化祭でクイズ大会や炊き出し訓練等を行っています。防災博士と司会のお兄さんとのおもひがピタリでしたね。

**柱2 健康フェスタ**



今年度は年代を問わず参加しやすいよう健康フェスタとし、内容も脳トレとニュースポーツ体験を実施しました。参加者からは「脳と身体両方使うことができるとも楽しかった」等、満足度の高い評価を得ることができました。

**柱2 第15回公民館長杯GG大会**



毎回賑やかに楽しく繰り広げられる大会です。ぜひお気軽にお申込みください。

今年度も1月を除く毎月一回実施されました。歌やレクリエーションで盛り上がりますが、中でも一番賑やかなのはやはりおしゃべり。



**柱2 がまの穂綿サロン**

**柱3 ソーイングカフェ春夏秋冬**



地域住民より裁縫がしたいとの要望があり、年4回の企画で行いました。毎回、西尾先生が用意される布のデザインが秀逸なのです。♥実用的でとっても可愛い作品たちです。

**柱3 パン教室**



地域住民からのリクエスト企画で、2年目になるパン教室を開催しました。自分で焼いたパンはなんてこんなにいいんだらう。講師の出井先生のアイデアにより手軽に楽しめる内容になっています。7年度も開催予定なので楽しみにしてください。

**柱3 曲げわっぱ**



智頭杉を使った曲げわっぱの弁当箱つくりを体験しました。お湯に浸けながら丸く型を取るのが難しく、何本か折れてしまいましたが無事に完成しました。

**柱3 さつまいも**



1・2年生と老人クラブを主とした有志20名の協力で

**苗植え**

さつまいもの栽培を通じた交流を進めています。児童も芋も大きく育っています。

**収穫祭**

**柱3 秋のお楽しみ会**



久しぶりのバス遠足。リニューアルした青谷上寺地遺跡で歴史の学習をした後、湯梨浜でりんご狩りを楽しみました。

申込みが殺到し、定員を増やしての対応となりました。カリヨン・スイスさんの心地よいハンドベル演奏を聞き、多彩なレクリエーションゲームで盛り上がりました。



**柱3 クリスマス会**

## ノーベル平和賞の受賞について

鳥取県原爆被害者の会 事務局長 石川行弘

2024年度のノーベル平和賞が日本原水爆被害者団体協議会(日本被団協)に授与されました。授賞理由の中に、核兵器使用は道徳的に容認できない「核のタブー」という強力な国際規範の形成に貢献するとともに、被爆者は被爆の悲惨な実相を伝え続ける歴史の証人として、世界に反核の機運を高め、核兵器の拡散と使用に警告を発している、とあります。

日本被団協は被爆者の団体として1956年8月に結成され、我々もその一員です。「ふたたび被爆者をつくらない。私たちの経験を通して人類の危機を救おう」を旗印に、核兵器は極めて非人道的な殺戮兵器であり、人類とは共存させてはならないために速やかに廃絶しなければならぬ、という運動をしてきました。今一つの課題は、日本政府の「戦争の被害は国民が受忍しなければならぬ」との主張に抗い、原爆被害は戦争を開始し遂行した国によって償われ、その責任を明確にしなければならぬという運動もしています。このことは受賞演説で田中代表委員が述べ、共感を受けています。

戦後の10年余り見捨てられてきた被爆者は原爆症に苦しみ、死亡者が多数存在するも多くの医師

は原爆症を知らず、治療しないまま。帰郷した兵隊、動員学徒、徴用労働者、孤児などもまた、被爆者と同様に無理難題と差別の中で孤立し、病気と貧困による苦しい生活を強いられました。戦争の悲惨さを経験した被爆者は、その実相を知っているが故に署名活動を行い、世界の多くの市民と協働し、2021年1月、核兵器のない平和な世をつくる一歩として「核兵器禁止条約」の発効に導きました。日本政府は署名・批准を行わないため、被爆者は数多の人々の支援を受けながら政府に対して署名・批准を求める署名活動を行っています。

この条約は核兵器の開発、製造などから威嚇までも禁止しています。この80年の間、核兵器を使用し、核戦争が起きていないことは被爆者にとっても誇るべきことですが、今まさに核兵器使用の脅しをかけている国が出て、核戦争の脅威が増した状況にあります。如何にして核兵器使用反対の世論を構築するか、被爆80年を前にしたタイミングで注意喚起の意味も込めてノーベル平和賞が被爆者団体に授与されたのでしよう。

鳥取県内の被爆者は120名程度で、平均年齢も88歳を超えていますので、平和運動は制限されています。平和は黙っていても我々を迎えてくれませんし、向かってきてくれません。つかみ取りに行っても築き上げるほかにありません。平和を愛する多くの市民が生まれ、生き続けたいという願いが、皆さんへの心からの願いです。

**柱4 海岸一斉清掃**



早朝よりたくさんのご協力ありがとうございました。

**うさちゃんサークルクリスマス会**



**白兔養護学校 地域学校協働活動**

作業学習は暑い日も寒い日もありますが、いつも元気のいいあいさつから始まり、時間をかけて丁寧に清掃してくださいました。はくとよるずやは毎年恒例となり、地域の皆様と生徒たちの交流を進めています。他にも中学部生徒さんがステキなお花で公民館の玄関を彩り、来館者の目を楽しませてくれました。



**はくとよるずや**



**作業学習**

**編集後記**

新型コロナウィルスの流行も落ち着き、活気ある末恒地区が戻りつつあると感じています。皆様のお知恵を拝借しながら、ますます住みよい地域になるよう、お手伝いさせていただきます。ご寄稿いただいた皆さまに心よりお礼を申し上げます。





伏野 中島 直實

**第9回 ふるさと探訪**

● 6月1日(火)実施

**柱5**

今回の「ふるさと探訪先」が、私にとって「ほとんど知らない」場所なのです。鳥取県に何十年も住んでいるのに、そこで参加し、その探訪は私の先入観を次々と見事に覆ってくれました。そして、参加した人々との心の交流が、私の旅情を濃くしてくれました。

初めに、①中山神社は、本居宣長の古事記伝により、白兔伝説の舞台だということが、寝耳に水。ひっそりと祀られている「サギの宮」が、その由緒を感じさせてくれました。

次の②名和神社は、後醍醐天皇を助け、船上山にかくまった名和長利ゆかりの神社。中学校の歴史の教科書にも出ていて知っているが、まさかその縁の神社があり、しかも「一ノ宮」という戦前の天皇崇拝の官弊社として認められていた由緒ある神社とは。

その後、昼食を「ホテル大山しろがね」で摂り、参加した人と神社談議に花を咲かせ、久しぶりの旅情をしみじみ味わいました。

最後の探訪先、③神崎神社は、素晴らしい龍細工に圧倒され、彫刻の技術の高さに驚きました。拝殿の前だったでしょうが、16メートルの龍の彫刻は息を飲むほどで、大工は日光東照宮に勉強に行ったという一瞬、左甚五郎を思い出しました。

帰りのバスの中では、参加した人たちの表情が満面の笑み、笑い声。辰年生まれの私にとっても、この「探訪」は物心ともに「いいめぐり逢い」でした。

